

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
弁	ベン かむわり わかまえる わけける かたなる とく はなびら		𠄎		𠄎		弁	弁	
覓	段注見出		𠄎					覓	
辨	ベン わかまえる わけける ②		辨	辨	辨	辨	辨	辨	
辦	ベン わかまえる わけける ②								
辯	ベン かたなる とく ②		辯	辯	辯	辯	辯	辯	
瓣	ベン はなびら ②		瓣					瓣	
弄	ロウ もてあそぶ 常①	𠄎	弄	弄	弄		弄	弄	
弊	ヘイ やぶれる 常①		弊		弊		弊	弊	
弊	ヘイ バイ ヘツ ベチ 段注見出		弊				弊	弊	

【弁】「辨／辦」「辯」「瓣」を統合した字。本来は「辨明／辦明」「辯護」「安全瓣」のように使い分ける。「弁」は冠の名。「辨／辦」は異体字で、識別する、区別すること。「辯」は論争すること。「瓣」は瓜の中の実。漱石は「勘弁」「辨解」「辨當」「辯ずる」「辯舌」「辯論」「能辯」「辯護」「能辯」「辯解」

と使い分けている。「辨解」と「辯解」を使っているのはどちらかが誤用か。太宰治が『人間失格』を書いたのは当用漢字表で「辨・辦・辯」が「弁」に統合された2年後だが、手書き原稿に「能辯家」と書いている。
【弄】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
弁	弁	弁	弁	弁	弁	弁		弁		弁		弁
					弁			(辨)				弁
辨	辨	辨	辨	辨		辨	辨					辨
												辨
辯	辯	辯	辯	辯		辯	辯					辯
												辯
												辯
												辯
弄	弄	弄	弄	弄				弄				弄
												弄
弊	弊	弊	弊	弊				弊	弊	弊		弊
												弊

【弊】篆書では「弊」を用いる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
弋	シキ シヨク のつとる のり		弋	弋			弋		弋
				弋			弋		
弋	ニシ ふたつ		弋	弋			弋		弋
弋							弋		弋
弓	キウ ゆみ	弓	弓	弓	弓	弓	弓		弓
							弓		弓
引	イン ひく ひける		引	引	引	引	引		引
							引		引
弔	チョウ とむらう	弔	弔	弔	弔	弔	弔		弔
							弔		弔
吊	チョウ つる つるす	吊	吊	吊	吊	吊	吊		吊
							吊		吊
弘	コウ ひろ ひろめる	弘	弘	弘	弘	弘	弘		弘
							弘		弘

【弓】当用漢字表では4画で書いているように見えるが、当用漢字字体表では3画で書いている。中国・台湾の明朝体は3画に見えるが、日本・香港の明朝体は4画に見える。
【引】当用漢字字体表では偏を4画で書いているように見え、「弓」の単体と字体が異なる。中国・台湾の明朝体は偏が3画

に見えるが、日本・香港の明朝体は偏が4画に見える。
【弔】干禄字書、康熙字典ともに「吊」は「弔」の俗字として。字体の変遷をみるかぎり、「吊」と「弔」は異体字と見て良いだろう。間に草書を介すると「弔」から「吊」ができた過程が理解できる。「口」は草書で点を2つで表現するが横

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
弋	弋	弋	弋	弋			弋	弋	弋	弋		弋
弋	弋	弋	弋	弋			弋	弋	弋	弋		弋
弓	弓	弓	弓	弓			弓	弓	弓	弓		弓
引	引	引	引	引			引	引	引	引		引
弔	弔	弔	弔	弔			弔	弔	弔	弔		弔
吊	吊	吊	吊	吊			吊	吊	吊	吊		吊
弘	弘	弘	弘	弘			弘	弘	弘	弘		弘

線が2つの点がつながったと解され、それを「口」と間違えたと「弔」が「吊」になる。江戸期は「弔」を「つる」、「とむらひ」、「吊ひ」を「とむらひ」、「とむらひ」と読むなど意味は分かれていない。『陸軍幼年学校用字便覧』(大正3年編纂、昭和13年改訂)は、「吊」を「弔」の許容字体として扱った「實ハ

別字」としており、意味は分かれていないと見るべき。太宰治は昭和23年発表の『人間失格』で「吊」と「弔」を明確に使っている。中国では「吊」と「弔」は「吊」に統合されているようだ。
【弘】 旁を「口」とする異体字がある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
弗	フツ ホツ ザル								法華義疏
弛	チシ ゆるむ ゆるまる たるむ								
弟	テイ ダイ デ おとうと								王勃詩序
弦	ゲン つる								龔賢指歸
弥	ヤビ いよいよ								光明皇后・北家立成
彌	人②								光明皇后・東家立成
弧	コ きゆみ								杜家立成

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
弗												
弛												
弟												
弦												
弥												
彌												
弧												

【弗】「ドル」は訓読みである。カタカナで書くけど。5画に分類されている。
 【弦】説文解字と武威漢簡は同じ字体。
 【弥】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。説文解字では「長+爾」。
 【弧】日本では「弓」部の6画だが、康熙字典では「弓」部の

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
弱	ジャク よわい よわる よわまる よわめる		弱	弱	弱	弱	弱弱弱	弱	杜家立成
弱			弱				弱弱弱		王勃詩序
強	キョウ つよい つよまる つよめる しいる		強	強	強	強	強強強	強	画因図文
強			強	強			強	強	龔賢指歸
疆		疆	疆	疆	疆	疆	疆	疆	光明皇后・楽観論
疆		疆	疆	疆			疆	疆	
張	チョウ はる	張	張	張	張	張	張張張	張	王勃詩序
張		張		張			張	張	張猛龍碑
彈	ダン ひく はずむ たま	彈	彈	彈	彈	彈	彈彈	彈	龔賢指歸
彈		彈	彈	彈			彈	彈	
弼	ヒツ すけ たすけ たすける	弼	弼	弼	弼	弼	弼	弼	龔賢指歸
弼		弼	弼	弼			弼	弼	
			弼	弼			弼	弼	
			弼	弼			弼	弼	

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
弱		弱	弱	弱			弱	弱		弱		弱 中国・台湾
弱												弱 香港
強		強	強	強	強		強	強		強		強 中国
強		強	強		強						強	強 台湾 香港
		疆	疆		疆							疆 中国・台湾
												疆 香港
張		張	張	張	張		張	張		張		張 中国
張		張		張							張	張 台湾 香港
彈		彈	彈	彈	彈		彈	彈		彈		彈 中国 台湾
彈		彈	彈	彈	彈							彈 香港
弼		弼	弼	弼	弼		弼	弼				弼 中国・台湾
			弼									弼 香港
			弼									

【弱】説文解字も五経文字も部首は「彡」。
 【強】干禄字書と五経文字は「強」と「疆」を異体字とする。説文は「疆」を別に掲載している。康熙字典は「強」「強」「疆」を別々に掲載している。陸軍幼年学校用字便覧は「疆」を「強」の通用字とする。説文解字は「強」の字体だが、秦代の睡虎地秦簡も、漢代の隸書も「強」の字体なので説文が誤りなのかもしれない。説文解字の段注本に大徐本と異なる或体がある。
 【弼】陸軍幼年学校用字便覧では「白」を「因」としたものを本字としている。